

令和6年度 学校評価

本年度の重点目標	<p>1 一人一人の気持ちと自分らしさを尊重した人権教育の推進を図る。 2 思いやりと支え合いの心を育む道德教育の推進を図る。 3 人と社会のつながりを大切にした生涯教育の推進を図る。 4 多忙感を縮減し、働きやすい職場環境づくりの推進を図る。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>知肢併置の特別支援学校として、多様性を重視した魅力あふれる教育の充実</p> <p>教務部 総務部 教育情報部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育活動の推進 ・地域連携活動の充実 ・地域共生社会への参画 ・本校の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等で知肢の合同学習の機会、部門や学年を越えた交流、学び合いの機会を設定する。 ・日常の学習活動において、共同学習の場を部の実情に応じて段階的に実施する。 ・地域と連携した学習活動（農産業等）を設定する。 ・居住地校交流を実施する。 ・校外学習の目的の系統性を整理する。 ・学校ホームページをとおして、行事だけでなく普段の学習活動の様子や作品などを発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両部門にとってより効果的な学習機会にするため、実態に配慮した活動内容を検討し、共通理解を図る。 ・児童生徒情報の共有、安全な学習環境を整えた上で学習活動を検討する。 ・地域の一員としての役割を児童生徒自身が実感できるようにする。 ・生活に結び付く体験的な学びを重視し、各部の学習の目的を確認する。 ・各部のホームページ担当者を中心に年間計画に基づいて掲載を呼びかける。
<p>専門性を発揮・向上し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の推進</p> <p>教務部 自立活動部 研修部 教育情報部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性に基じた授業力向上 ・自立活動指導全般の段階的整備と専門性向上 ・知肢の専門性を重視した研修実施 	<p>【知的障害教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画（自立活動）新様式での作成に移行し、各教科等の指導計画とのつながりを整理する。 <p>【肢体不自由教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等を合わせた指導において、各教科の視点を意識した授業を実践する。 ・三河青い鳥医療療育センターとの障害児等療育支援事業、外部専門家活用事業を継続して活用する。 ・自立活動相談の積極的活用を更に進める。 ・自立活動の指導内容充実とともに自立活動の個別の指導計画作成システムを整える。 ・各校務と連携をとって自立活動を始めた知的・肢体それぞれの専門性に特化した研修を計画する。 ・多くの職員が参加しやすいように夏季研修を計画、実践をする。 ・両部門に関する指導技術や指導法に関するショート動画を作成し、活用を促す。 	<p>【知的障害教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動のねらいを各部で周知し、学校生活全般との関連を踏まえながら、時間における指導の授業内容を十分検討する。 <p>【肢体不自由教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画や指導案等で目標や観点を踏まえるよう周知する。 ・事業を活用した相談を年3回（理学療法士2回、作業療法士1回）に加え、夏季休業中に作業療法士による講話を実施する。 ・自立活動部内で支援方法等の相談をし、発信していく。 ・研究の実践やアンケートから作成に関する日程や方法、指導者連携日などを教務部、自活部、研修部で連携して検討する。 ・校内研究とも関連させて外部講師や校内の専門性をもった教員に依頼してニーズに合った研修を計画する。 ・夏季研修の日程や方法を検討し、資料や動画を共有できるように整える。 ・摂食、姿勢へのアプローチ、構造化など専門的な知識を短い動画で学べるように準備を進める。

	・ G I G A端末の活用及び I C T教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ G I G A端末を中心とした I C T機器の有効的な使い方を提案する。 ・ 校内ネットワークの新システムへの移行をスムーズに行う。 ・ 自立活動に関する支援機器を繰り返し周知するとともに、授業での活用実践を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季研修で、G I G A端末の活用に関する研修を行ったり、実践例をグループウェアで周知したりする。 ・ 移行のスケジュールや対応について全職員に周知するとともに教育情報部内で役割分担をし、丁寧な対応を心掛ける。 ・ 機器活用の調査を行い、実践内容を1枚のシートにまとめる。夏季休業中に、機器を含む器具紹介や体験の研修を企画する。 	
保護者・地域社会とつながり、信頼される学校づくりの推進	・ 人権意識の高い、児童生徒の人格を尊重した指導 ・ いじめ不登校の予防推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な研修や啓発、教職員の行動指針を作成することで、人権尊重の組織風土を醸成する。 ・ 生活アンケートの質問事項を随時見直すとともに、計画的に不登校対策委員会を行い、情報共有と必要な手立てを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議等を利用して自身の指導を点検したり、指導方針を話し合ったりする機会をもち、人権に関する資質向上を図る。 ・ 2回のアンケート結果の周知及び情報共有を行い、スクールカウンセラーの見立て等を踏まえ、委員会において適切な支援方法について検討する。 	
	生活指導部 進路指導部 相談支援部 部主事	・ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援会議等の地域の会議に参加して、地域社会とのつながりを強化する。 ・ 進路だよりを発行し、校内での進路に向けた取組や地域の情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校の特色を生かして、地域支援を推進できるようにする。 ・ 情報を提供することに留まらず、本人・保護者の主体性を促せるようにする。
	・ センター的機能の整備 ・ 地域支援による連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談とみどり相談の情報の一元化を図り、地域の小中学校等のニーズに応じた支援を行う。 ・ みどり相談（学校等支援）において、新たに、教職員の授業体験研修の受入を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談とみどり相談の情報共有の方法を確立し、地域の小中学校等の支援ニーズを把握する。また、小中学校等への継続的な支援方法を検討する。 ・ 教職員の個別のニーズに合わせた受入体制を整える。 	
安全・安心な指導体制、教育環境の整備	・ 安全・安心な生活指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校安全実践力向上サポート事業により、見直しが必要とされた内容を整理し、各種訓練の内容や危機管理マニュアルに反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校危機管理マニュアルや緊急時対応について具体的な見直しを行い、実用性を向上する。見直した内容について、現職研修などを通して教職員へ周知する。 	
	生活指導部 保健体育部	・ 安心できる保健体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットの目的を再確認し、事例を収集して全体に周知し、適切な安全対策をとる。 ・ 実態に応じた食育指導が行えるよう、食に関する指導の全体計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例が集まるように呼び掛け、対策等を周知し、重大な事故を防ぐことができるようにする。 ・ 両部門の食に関する指導について振り返り、必要な内容を整理する。
	・ 医療的ケアの安全な実施体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な医療的ケアが継続して実施できるよう、年度替わりの円滑な引継ぎを中心に校内体制を整備する。 ・ 徒歩圏内の校外学習における、看護師の付き添いを安全に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関、保護者、関係職員、看護師が情報共有できるよう、コーディネーターを中心に連携を図る。 ・ 校外学習後に、課題や緊急対応について整理し、より安全に行える仕組みを整え、適用範囲の拡大についても検討する。 	
効率的な組織体制の確立 副校長、教頭	・ 機能的、効率的な部・校務分掌の組織体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務改善提案を積極的に採用していく。 ・ ホームページ、メールを活用した文書発信を行う。 ・ 在校時間把握を基に、実働時間数を縮減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部、学年、校務分掌ごとに業務改善提案を収集する。 ・ 保護者への周知、翻訳等の対応を丁寧に行う。 ・ 施設時間及びタイムマネジメントの意識啓発を行う。 	
学校関係者評価を実施する主な評価項目		○特色ある教育活動 ○一人一人を大切にされた教育 ○地域とのつながり ○安全・安心な学校		